

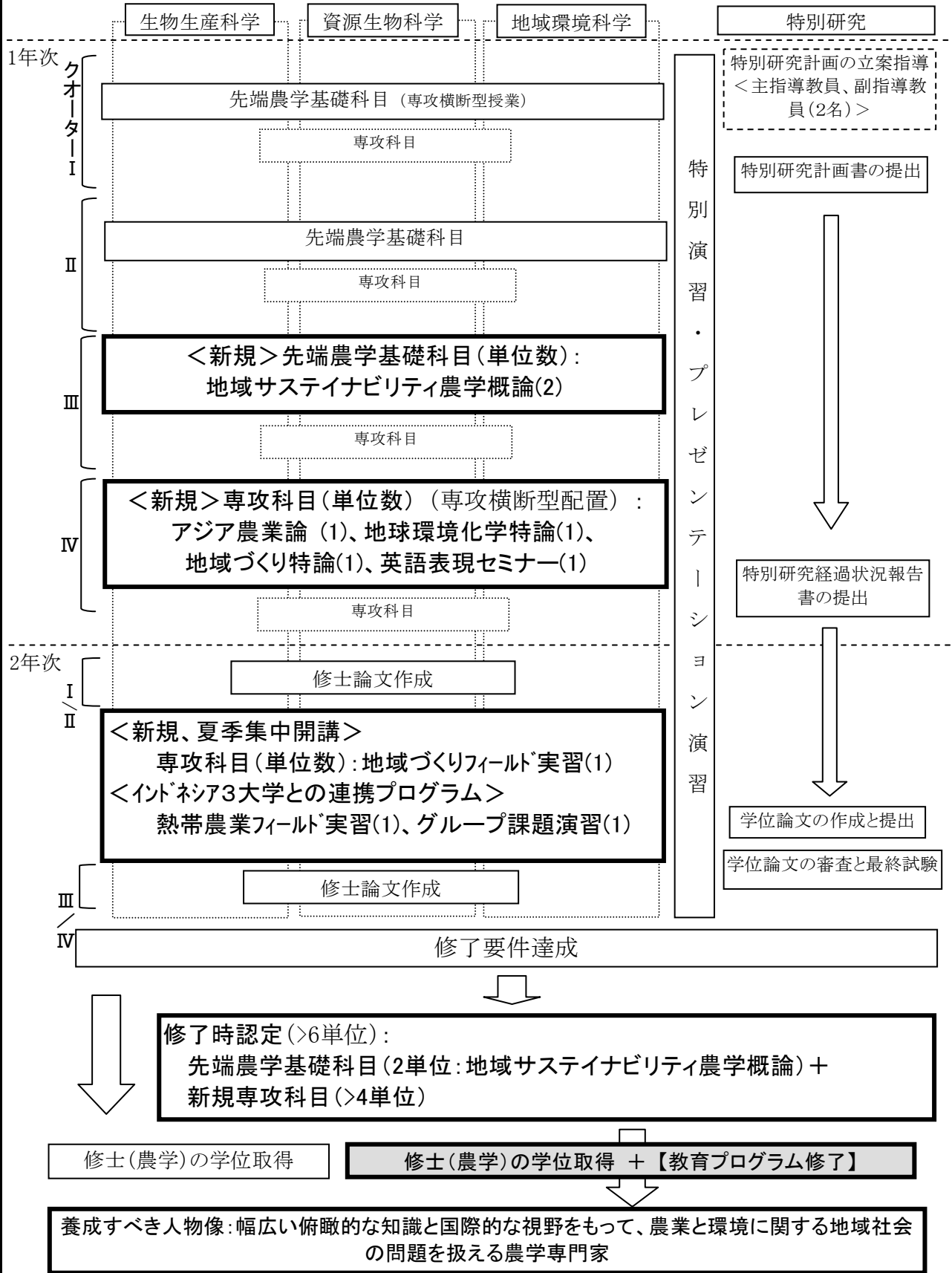
## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	茨城大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	地域サステナビリティの実践農学教育		
主たる研究科・専攻名	農学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 松田 智明		
<p><b>[教育プログラムの概要]</b></p> <p><b>目的</b></p> <p>本学農学研究科修士課程では、21世紀に求められる環境と調和した人類の持続的発展のために、農学を基盤とした食料・生命・環境に関する幅広い基礎知識と専攻分野における高度な専門知識・技術及び研究開発能力を備え、地域・国際社会で自立的に問題解決が出来る力を持った人材の養成を目的としている。</p> <p><b>これまでの取組</b></p> <p>本研究科では、地域・国際社会で自立的に問題解決できる人材の養成を強化するために、平成16年度に改組を行い、<b>地域環境科学専攻</b>を新たに設置した。新カリキュラムでは、学際的な分野への対応力を培うための<b>専攻横断型授業科目(先端農学基礎科目)</b>の開設と、研究指導體制を強化するための<b>複数指導教員制</b>の導入を行った。また、<b>クォーター制</b>を導入して、柔軟で効率的な授業科目の運用を図った。平成18年度には、授業科目の単位認定基準の明示化、修士論文の評価基準と審査手順の整備を行った。</p> <p><b>教育内容の提案</b></p> <p>本教育プログラムでは、農学研究科の教育目的の一層の具体化を図るために、農業と環境に関する地域社会の問題解決に貢献しうる人材の育成機能を強化した「<b>地域のサステナビリティ(持続性)を扱う新しい農学教育</b>」を実施する。本教育プログラムで目指す能力は、①<b>地域サステナビリティに関する広い視野</b>、②<b>地域サステナビリティに関する専門知識</b>、③<b>英語によるコミュニケーション能力</b>、④<b>問題解決のための実務能力</b>、である。そのために、それぞれの能力に対応する次のような科目を設定した:(1)「<b>フィールド実習</b>」(2科目、各1単位)、(2)「<b>アジアの農業</b>」、「<b>地球環境</b>」、「<b>地域づくり</b>」に関する専攻科目(3科目、各1単位)とサステナビリティ学に関する共通科目(1科目、2単位)、(3)外国人講師による「<b>英語表現セミナー</b>」(1科目、1単位)、(4)「<b>グループ課題演習</b>」(1科目、1単位)。これらの科目は専攻横断型に開講し、これまでの修士学位の修了要件に加えて、本教育プログラムで開設した科目のうち6単位を取得した者とする計画である。</p> <p><b>教育方法の提案</b></p> <p>以上に述べた能力の育成を確実に保証するために、これまでの教育の実質化の取組(授業科目の単位認定基準や修士論文審査基準の整備、教員の授業改善評価等)に加えて、①<b>海外学術交流締結校との連携協力</b>による実習科目(「<b>熱帯農業フィールド実習</b>」)及び演習科目(「<b>グループ課題演習</b>」)の開発、②<b>地域住民や企業と連携した実践型授業科目</b>(「<b>地域づくり</b>」に関する専攻科目、「<b>地域づくりフィールド実習</b>」)の開発と展開、③<b>学術交流締結校の教員を含めた国内外の有識者からなるワークショップ等</b>の開催によるFD活動の推進、といった教育方法及び教員の教育力向上の取組を導入する計画である。</p> <p><b>全学的位置づけ</b></p> <p>本プログラムの実施は、これまでの本研究科の教育の実質化を一層強化するものである。さらに、茨城大学では、平成18年度から、東京大学を統括大学とする「<b>サステナビリティ学連携研究機構</b>」のメンバーとして参加し、<b>地球変動適応科学機関(ICAS)</b>を設置してサステナビリティ学の研究教育に取り組んでいる。本研究科では、その主要なプロジェクトを担当しており、本提案は茨城大学における全学的な教育研究の展開と軌を一にするものである。</p> <p>以上に述べたように、本プログラムの取組によって、<b>地域のサステナビリティを扱う新しい農学</b>の展開が期待される。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

本提案の目的：農業と環境に関する地域社会の問題解決に貢献しうる人材の育成機能を強化した「地域のサステナビリティ(持続性)を扱う新しい農学教育」を実施する。

**地域サステナビリティの実践農学教育プログラム（専攻横断型配置）**



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「地域・国際社会で自主的に問題解決できる人材の養成」を目指し、専攻横断型授業科目の設置や、複数指導教員制の導入、修士論文も含めた評価基準等の明示など、実質化に向けた着実な取組が見られる点は評価できる。

教育プログラムについては、「地域のサステイナビリティ（持続性）を扱う新しい農学教育」の展開を目指し、国内外のフィールドを活用して持続的発展を理解させる「地域づくりフィールド実習」科目の開設など、テーマに沿った取組が提案されており、今後の展開が期待されるが、地域性と国際性の両面の理解をより深めさせるための教育プログラムの更なる工夫が望まれる。